SBAS解析手順

2024/05/23

全体的な流れ

- O. 事前準備(ユーザ登録)
- 1. 2時期解析: ASF VertextのHyP3での作業
- 2. SBAS解析: ASF OpenSARLabでの作業
- 3. グラフ作成: Googleコラボでの作業

O. 事前準備(ユーザ登録)

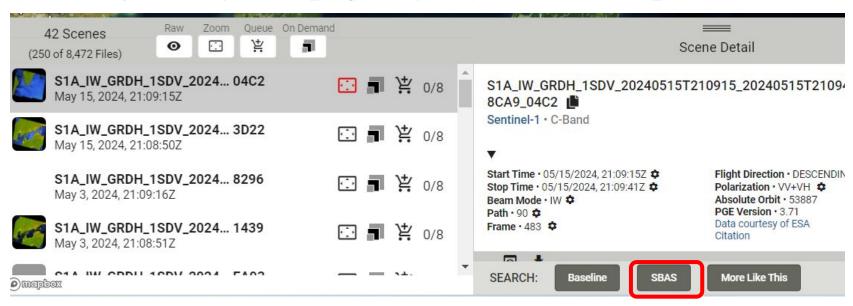
利用する以下の2つのサービスの利用登録が必要

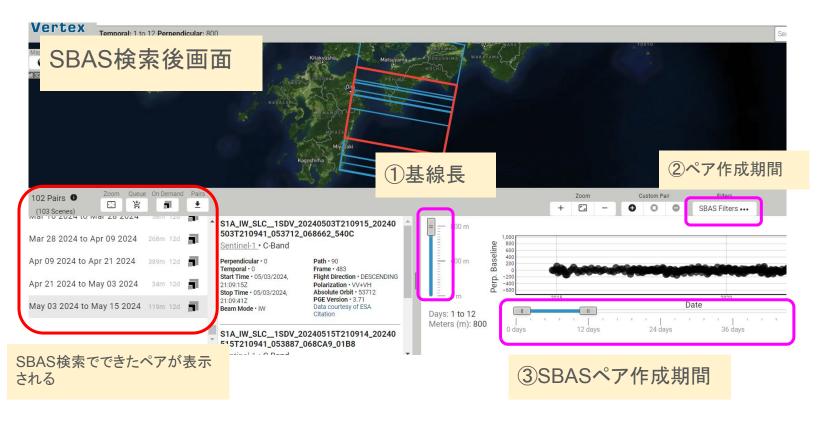
- 1) ASF data serch: ASF Data Search
- ②OpenSARLab: <u>OpenSARLabのログインサイト</u>※
- ※OpenSARLabの方は最終的なユーザ登録はASF職員作業が入るためメール等で最終登録プロセスのフォロー必要

注記

可能ならばID/PWは①と②は共通の方が楽(忘れにくい)

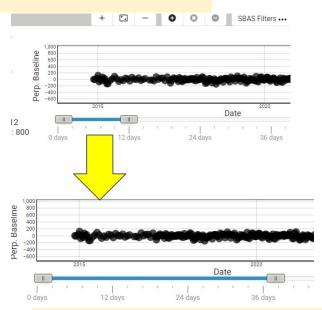
観測データ検索で対象シーンを選択し右側にある"SBAS"ボタンをクリック。





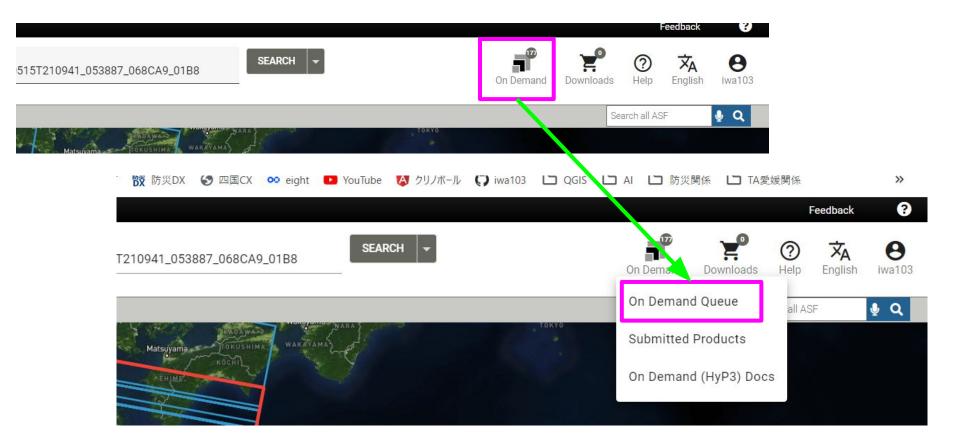


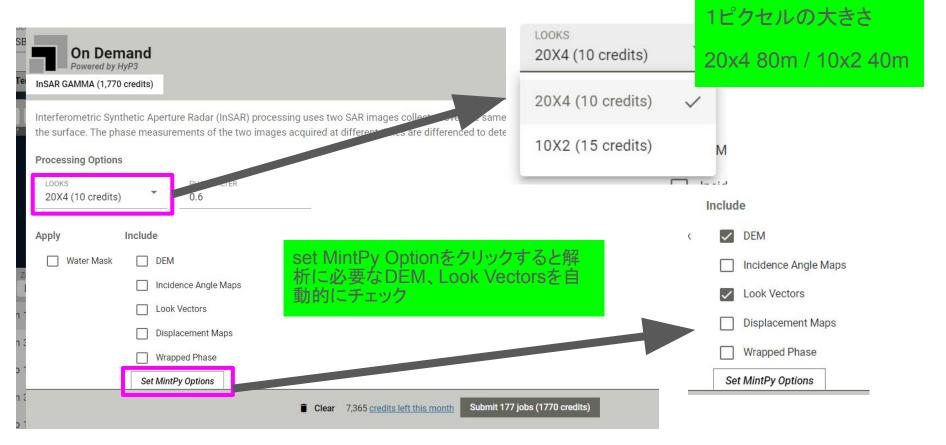
③SBASペア作成期間



デフォルトは12日(1ペア)となっているので対象間隔期間を増やす必要あり。本画面では36日(3ペア)に変更







備考

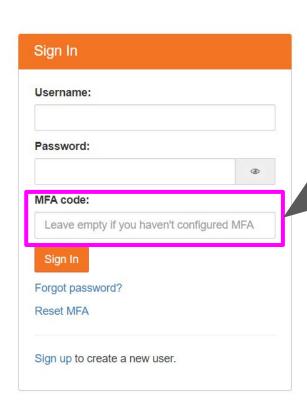
1. 分解能(ピクセルサイズの2倍)

ピクセルサイズ:20x4 80m / 10x2 40m->分解能 20x4 160m/10x2 80m

2. 利用可能回数(2024/5時点)

1か月で10,000クレジット利用可能、1回の解析計算では20x4が10クレジット、10x2では15クレジット。ただしその後のOpenSARLabでの解析作業=利用保存領域(500G)を考慮すると2~3年間の解析が無難(2年間、36日前までペア作成の場合、61シーンで177ペア、1件の解析結果は10x2で0.8Gなので約150G)

2. SBAS解析: ASF OpenSARLab(ログイン)



MFA codeは一種のランダムパスワード のようなもので、ブラウザにプラグインを インストールしそのプラグインから表示さ れた番号をここに入力

2. SBAS解析: ASF OpenSARLab(サーバ立上げ)

OpenSARLab (ASF DAAC) ASF クリック Info Go to lab NASA JupyterHub operated by the Alaska Satellite Facility クリック Start My Server

2. SBAS解析: ASF OpenSARLab(サーバ立上げ)

Server Options

SAR 1

JupyterLab 4 - RAM Guarantee: 6G. RAM limit: 16G. CPU limit: 8. Storage: 500G.

m6a.xlarge - Single User

JupyterLab 4 - RAM Guarantee: 10G. RAM limit: 16G. CPU limit: 4. Storage: 500G.

m6a.large - Single User

JupyterLab 4 - RAM Guarantee: 5G. RAM limit: 8G. CPU limit: 2. Storage: 500G.

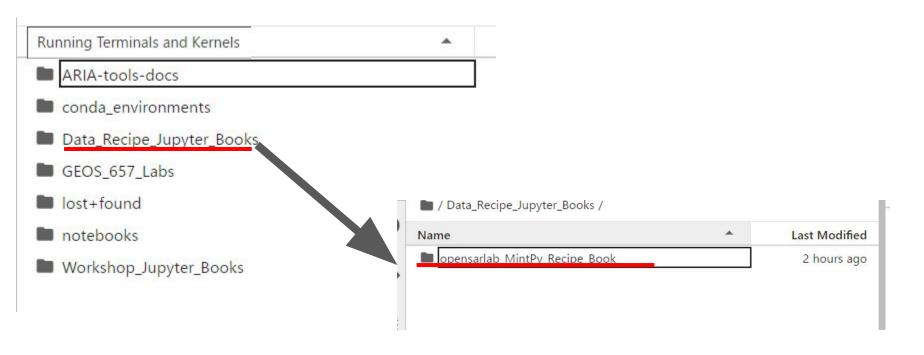
保存容量: すべて500G

メモリ:8~16G

CPU(プロセッサ数):2~8

どうせ無料ならば性能のいい方を選んだ方がお 得?

Start



基本的にはジュピターノートブックは各セルを順番通りに実行していけば問題なく作業は終了。部分的にファイルを選択する個所があるのでそこは注意必要。

基本的にはGeotiffファイルがあるフォルダ選択とSBASの計算設定ファイルの2つの選択のみ。

その他全般的な注意点としてはほとんどのセルは実行=すぐ終了(1~2秒)、ただし一部処理に時間がかかるセルもある。

```
!smallbaselineApp.py $config path --work-dir {mint path} --dostep geocode
MintPy version 1.5.3, date 2023-11-23
 --RUN-at-2024-05-23 03:52:57.912686--
 Current directory: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab MintPy Rec
 Run routine processing with smallbaselineApp.py on steps: ['geocode']
 Remaining steps: ['google earth', 'hdfeos5']
 Project name: okinawa sbas
 Go to work directory: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab MintPy
 read custom template file: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab Mi
 update default template based on input custom template
No new option value found, skip updating /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books
read default template file: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab №
 ************* step - geocode ************
 dataset is geocoded, skip geocoding and continue.
 Go back to directory: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab MintPy
 Normal end of smallbaselineApp processing!
 Time used: 00 mins 0.0 secs
```

セルの計算時の注意点(重要)

一部セルは設定等のチェックボックスなどをクリックしないといけないケースがある、その場合そのセルを選択したと判断されそこで実行(シフト+エンター)してしまうと同じセルを再度計算実行することとなる。よってセル実行後に選択などのアクションをとる場合、かならず次のセルを選択してから実行しないといけない。

セルの計算ステータス確認方法

確認方法1

[24]: !smallbaselineApp.py \$config_path --work-dir {mint_path} --dostep geocode

[24]:計算完了

[*]:計算中

確認方法2

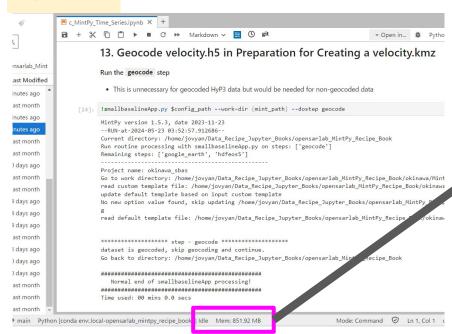
Normal end of smallbaselineApp processing!

Time used: 00 mins 0.0 secs

このメッセージが出ていれば終了

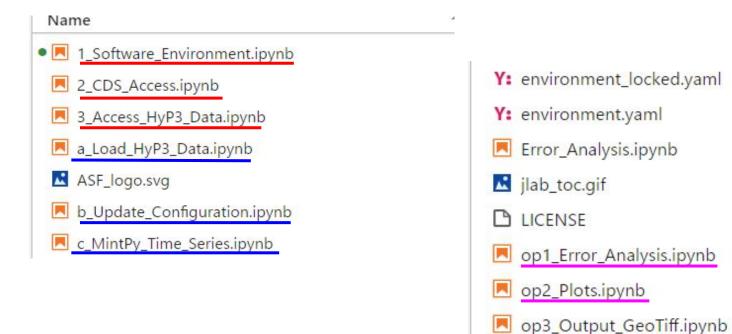
セルの計算ステータス確認方法

確認方法3





実際につかうファイル



- ①1_Software_Environment.ipynb(基本的に初回のみ)
 アナコンダおよびPython等の環境設定、ただし場合によっては再度やり直した方がいいケースありー>毎回やる必要はないがたまにやった方がいいようにも感じる
- ②2_CDS_Access.ipynb(毎回?初回のみ?)
 対流圏補正のCDSのアクセス関係、ただし使わない場合も更新しないと処理した方がいい、また一度利用となると他の設定ファイルが消えてしまう可能性あり(2024年5月時点でCDSサーバ移行中のため利用しない)

③3_Access_HyP3_Data.ipynb(毎回)
HyP3から結果ダウンロードおよび解析範囲のサブセット(切取部分)、なおSBAS解析の場合、計算で利用するペア数が多いのでダウンロードにかなり時間がかかる(160ペアだとダウンロード&解凍で約3時間程度必要)。また基本設定ではサブセット後はオリジナルのGeotiffファイルは消えてしまう。よって同じシーンでも解析したいエリアが異なる場合、再度同じ作業を行わないといけない。

注意点

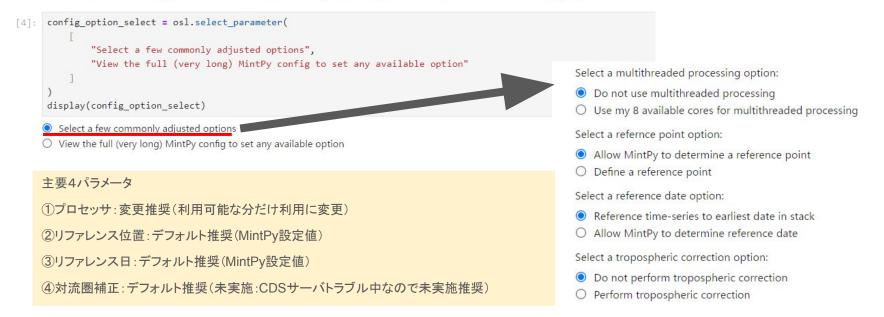
サブセット/クリップ(切取)範囲指定部分でバグがある可能性あり。指定した範囲に対してずれてしまう、現在は別途直接、座標値を入力して対応(CRS 3857でQGISで範囲を指定してその値を使うのが無難)

④a_Load_HyP3_Data.ipynb HyP3のデータ取得、途中のセルで参照フォルダ選択が必要になるので注意



⑤b_Update_Configuration.ipynb MintPyの解析パラメータ設定。主要4パラメータもしくは全パラメータの2択、ただし主要4パラメータの方が簡単。

2. Select how you would like to update your time series configuration



⑥c_MintPy_Time_Series.ipynb 実際のSBAS解析部分。基本的にはセルを最初から実行すればいい。 ただし一部抜かす必要な個所あり。

6. Perform Phase Unwrapping Error Correction (Optional)

実行する必要なし

This can be performed on HYP3_ISCE_BURST data but not on HYP3_GAMMA data

- 次の"7"を実行
- Gamma processing software does not produce the connected components data required for the



7. Inverting the Small Baseline network

Run the invert_network step

- Invert the network of differential unwrapped interferograms to estimate the time-series of unwrapped phase with respect to a reference acquisition date
- By default mintpy selects the first acquisition
- · The estimated time-series is converted to distance change from radar to target and is provided in meters.

⑥c_MintPy_Time_Series.ipynb 実際のSBAS解析部分。基本的にはセルを最初から実行すればいい。 ただし一部抜かす必要な個所あり。

8. Correct for Tropospheric Propagation Delays (Optional) 1

CDS is migrating data and current service is impacted

February 14, 2024

https://forum.ecmwf.int/t/a-new-cds-soon-to-be-launched-expect-some-disruptions/1607

ここはそのまま実行

ただしパラメータ設定で"未実施"を選択しているので何も計算はしない。ただしやっておいた方がいい。

⑦op1_Error_Analysis.ipynb

最初の部分は通常のその前の⑥でも行っている。ただしやってもそんなに時間はかからない。ただし最後の4GPSとの比較はここでしかできない。

4. Compare InSAR time-series with GPS time-series in LOS direction

- http://geodesy.unr.edu/NGLStationPages/gpsnetmap/GPSNetMap.html
- http://geodesy.unr.edu/NGLStationPages/DataHoldings.txt

Access University of Nevada, Reno GPS station metadata and select a list of available stations

Ignore stations:

- outside the AOI
- · outside the time range of the time series
- on no-data pixels

Two GPS stations are required for LOS conversion

GPSデータとの比較なので実行しない、やりたい場合は自分で調べてください

®op2_Plots.ipynb

主に計算結果データ確認用(結果グラフのPDFやGUIベースで地図で位置を指定してグラフ表示など。MintPyで計算完了して再度結果のみ確認する時に使う程度。

(9)op3 Output GeoTiff.ipynb MintPyでの結果をGeotiffファイルで出力する部分、GISソフトでデータ整理時に使うので 一番重要。

9. Compress GeoTiffs for Downloading

要注意!!!

zip option = osl.select parameter(["Zip `GeoTiffs` directory", "Do not zip `GeoTiffs` directory"], description= display(zip option) ばいい Do you wish to zip your GeoTiffs? Zip `GeoTiffs` directory O Do not zip 'GeoTiffs' directory zip = 'Do not' not in zip option.value if zip: shutil.make archive(mint path/geotiff path.stem, 'zip', geotiff path) print(f'Zip archive location: {mint_path/geotiff_path.stem}.zip') Zip archive location: /home/jovyan/Data Recipe Jupyter Books/opensarlab MintPy Recipe Book/okinawa/MintPy/GeoTiffs.zi

作成されたGeotiffファイルを フォルダごと圧縮処理する部

最後に保存先が表示される =このフォルダに移動して ファイルをダウンロードすれ

グラフ作成部分

(Googleコラボで作成)

経緯

SBAS解析では本来有効な結果はコヒーレンスが高いものに限られる。よってMitnPy標準での結果出力ではコヒーレンスが低い山間部などは結果が表示されない。ただしGeotiffファイルでの変位結果はコヒーレンスが低い場所でも残っている。よってこのGeotiffファイルからデータを直接抜き出せばあくまで信頼度は低いがSBASでの変位解析結果と言える。

なのでここではGeotiffファイルからデータを抜き出しグラフ化部分を説明。

主な作業の流れ

1. データ抽出 & まとめ: 1 Geotiff結合.ipynb

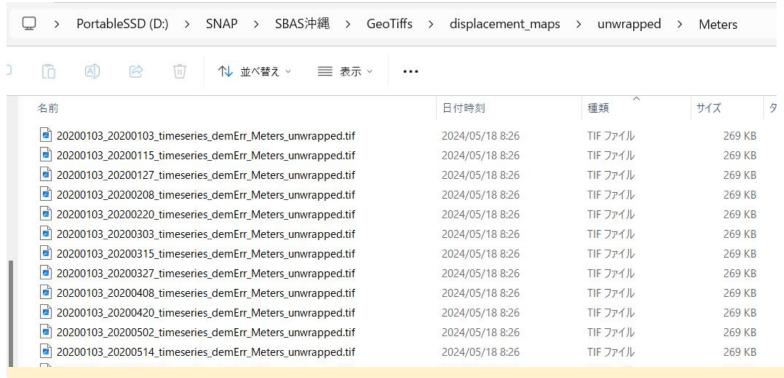
SBAS解析でできた各期間の結果ファイル(Geotiff)から抽出したい緯度経度の場所のデータを記載している CSVファイル(ファイル名任意)を抜き出しCSVファイル(Geotiff_value.csv:ファイル名固定)にまとめる。

なのでエクセルでグラフ作成するならばここの処理のみで終わり。

2. グラフ作成: 2 グラフ作成 new.ipynb

ピクセルあたりのデータとなるのでポイント数は非常に多い。よってグラフ作成部分を Pythonで自動処理。 Geotiff_value.csvと作成したいポイントリスト(columns.csv:ファイル名固定)の2つのCSVファイルを選択しグラフを作成するもの。

実際にダウンロードしたGeotiffのフォルダ構成



作業で使うファイルパス(GeoTiffs\displacement_maps\unwrapped\Meters)

手順(詳細)

1. データ抽出 & まとめ: 1 Geotiff結合.ipynb

SBAS解析でできた各期間の結果ファイル(Geotiff)から抽出したい緯度経度の場所のデータを記載している CSVファイル(ファイル名任意)を抜き出しCSVファイル(Geotiff_value.csv:ファイル名固定)にまとめる。

入力ファイル(読込順、2回に分けて読込)

- ①緯度経度の場所のデータを記載している CSVファイル(1つのファイル)
- ②SBAS結果のGeotiffファイル(複数ファイル)

出力ファイル

①Geotiff_value.csv(各ポイントの観測日ごとの変位を保存したもの)

ファイル中身

入力①緯度経度の場所のデータを記載しているCSVファイル

1 fi	d	X	у	
2	1	375760	2902840	
3	2	375760	2902800	
1	3	375760	2902760	
5	4	375760	2902720	
5	5	375760	2902680	
7	6	375760	2902640	
	7	075760	0000000	

データを抜き出したい設定記載したファイル

ID、緯度経度(X、Y)の3つから構成されている

Geotiffの座標系で緯度経度は設定しないといけないので注意必要

現在はWGS 84 / UTM座標系(日本だと52~55)、事前にダウンロードしたGeotiffはQGISなどでCRS確認した方が無難。

入力①ファイル作成の手順(QGISでの作業前提)

- 1. Geotiffを取込む&CRS確認
- 2. データ抽出範囲作成(ポリゴン)
- 3. プラグイン(ポリゴン内のピクセル中心点)でベクタのポイントファイル作成
- 4. フィールド計算機でXとYを求める(作成時にデータ種別注意:整数・小数点等)

ファイル中身

出力①Geotiff_value.csv(各ポイントの観測日ごとの変位を保存したもの)

Date	1_value	2_value	3_value	4_value	5_value	6_value	7_value
20200103_20200103	0	0	0	0	0	0	0
20200103_20200115	0.000337	0.000191	0.00081	0.000484	0.000465	5.94E-05	0.00031
20200103_20200127	-0.00718	-0.00776	-0.008	-0.00821	-0.00765	-0.00827	-0.00778
20200103_20200208	-0.00713	-0.00793	-0.00779	-0.00847	-0.00877	-0.00932	-0.00863
20200103_20200220	-0.00313	-0.00393	-0.00324	-0.00375	-0.00405	-0.0044	-0.00361
20200103_20200303	-0.00203	-0.00311	-0.00215	-0.00187	-0.00212	-0.00272	-0.00216
20200103_20200315	-0.01062	-0.0125	-0.01191	-0.01345	-0.01403	-0.01482	-0.01356
20200103_20200327	0.003409	0.002353	0.003577	0.002871	0.002919	0.002389	0.002515
20200103_20200408	-0.00018	-0.00128	-0.00012	-0.00062	-0.00168	-0.00194	-0.00123
20200103_20200420	0.00233	0.000799	0.001615	0.000661	0.000495	0.000354	0.000437
20200103_20200502	0.008101	0.007463	0.009524	0.009079	0.008182	0.00806	0.007318
20200103_20200514	0.002947	0.002729	0.004045	0.003784	0.003382	0.002735	0.002225
20200103_20200526	0.008606	0.007993	0.008973	0.00857	0.007686	0.006905	0.006269

各ポイントのそれぞれの年月日 が変位量が保存されている 単位はMintpy側で設定可能(m or cm)

後半の年月日が変位量算出日

手順

2. グラフ作成: <u>2 グラフ作成 new.ipynb</u>

Geotiff value.csvと作成したいポイントリスト(columns.csv)の2つのCSVファイルを選択しグラフを作成する。

入力ファイル

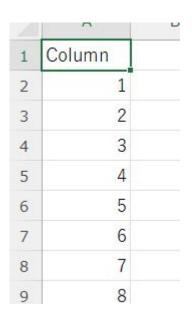
- ①Geotiff_value.csv(最初のステップでできたファイル: ファイル名固定)
- ②columns.csv(グラフを作成したいポイントリスト: ファイル名固定)

なおこの時にプログラムのリファレンスデート部分を実際の SBAS解析結果のリファレンスデートに 自分で変更 しておくこと

リファレンスデートはMintPyの結果フォルダ内にあります

ファイル中身

②columns.csv(グラフを作成したいポイントリスト:ファイル名固定)



グラフを作成したいポイント番号を記載したファイル

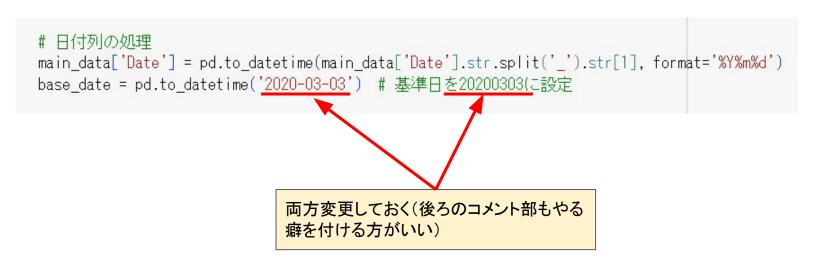
ここで指定した番号のみグラフ作成、通常は全番号記載、ただし場合によっては場合には番号を絞り込んでグラフ作成可能 (例:ポイント数が1000点以上、水面などグラフ作成必要ない 個所の除外時に活用)

手順

リファレンスデートはMintPyの結果フォルダ内にあります

2. グラフ作成: 2 グラフ作成 new.ipynb

なおこの時にプログラムのリファレンスデート部分を実際のSBAS解析結果のリファレンスデートに自分で変更しておくこと



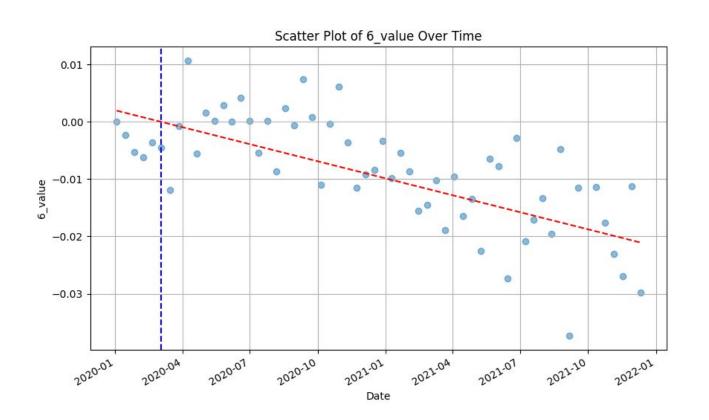
手順

2. グラフ作成: 2 グラフ作成 new.ipynb

出力ファイル

>Plot.zip(作成されたグラフファイル(PNG)が保存されている"Plot"フォルダを圧縮したもの:ファイル名固定)

実際に作成されたグラフ



主なトラブル原因=トラブルシューティング

- 1. GeotiffのCRS不一致一>異なったCRSで場所指定をすると完成したCSVファイルはエラーで終了もしくは空のファイルになる可能性大
- 2. ファイル名固定のもの(Geotiff_value.csv、columns.csv)はファイル名を変えないー>計算終了後にファイル名を変える、ただし再度実行する場合にはファイル名を戻さないといけない
- 3. ファイルアップロードする際は関係ないファイルは選択しない